

豊かな地域福祉社会を目指して

福祉のまち推進センター

慣れ親しんだ地域で、生きがいを感じながら、安心して生活できることが、誰もの願い。そういった高齢者の願いの実現のため、区内各地区には「福祉のまち推進センター」があります。

今月は、各地区のセンターで行われている取り組みについて、ご紹介いたします。



札幌地区のミニサロンでの室内パークゴルフ。
大変な盛り上がりでした



「向こう三軒、両隣の支え合いが、
地域福祉の基本」と話す畠田さん

日常生活には、思わぬところに、不安や困り事が隠されているもの。特に、高齢になると、健康面のことなどさまざまな不安を抱えて生活している方も多くいます。

そのため、区内の各地区にある福祉のまち推進センターでは、福祉協力員と呼ばれる地域の方々が、一人暮らしの高齢者の自宅を訪問したり、電話をかけたたりするなどの、見守り活動をしています。

鉄東地区の福祉のまち推進センターでは、民生委員や各町内会の福祉協力員、ボランティアの人たちなど約百人の高齢者世帯の日常的な見守りをしています。

見守る

「毎日の生活の状況や地域に対して求めていることは、まさに人それぞれ。見守られる側の立場に立った活動を続けていきたい」と話すのは、同センター事務局長の畠田松一さん。元気で気力の充実している高齢者から「大丈夫。心配いらないよ」と、訪問を



高齢者の自宅を訪問する福祉協力員の齊藤節子さん(右)。「親切の押し売りにならないよう、思いやりを持ってお話を聞いています」と話してくれました

遠慮されることもありませんが、体調を崩している方など、心配な場合には、連日のように通うこともあるそうです。

鉄東地区の協力員は熱心な方々が多く、必要な場合には、体調の悪い方の通院につき添って行ったり、離れて暮らしている家族に連絡を取ったりするなど、非常に親身な対応をしています。地震の時には、協力員の方々が、自発的に、訪問を担当している高齢者の安全を確認したそうです。

人生の大先輩たちを、地域ですっかり支えていくためには、何でも話してもらえようになることが第一歩。高齢者の信頼を得ながらの地道な活動は、今後も続いていきます。